



ウィズコロナ時代における県境連携の再価値化 ～ 逆境からの挑戦 ～

主催 : 三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)

共催 : 三遠南信地域経済開発協議会

後援 : 農林水産省、経済産業省、国土交通省

1. 事業名

第 28 回三遠南信サミット 2021 in 遠州

2. テーマ

ウィズコロナ時代における県境連携の再価値化 ～逆境からの挑戦～

3. 開催形態

ホームページ上の特設サイトから配信

4. 開催（配信）日

令和 3 年 2 月 15 日（月）

5. 内容

(1) 95 構成員代表者によるビデオメッセージ（録画配信）

全 95 構成員代表者によるビデオメッセージを特設サイトから配信

(2) 正副会長によるパネルディスカッション（ライブ配信）

正副会長 6 名によるパネルディスカッションを特設サイトからライブ配信

・日時：令和 3 年 2 月 15 日（月）14:00～16:00

・会場：アクトシティ浜松コンGRESセンター43 会議室

(3) 関連事業：住民セッション（録画配信）

住民団体（三遠南信住民ネットワーク協議会）による住民セッションを特設サイトから配信

6. その他（昨年度との変更点）

今回の三遠南信サミットは、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、例年のような構成団体代表者等による参集を回避し、新たな取り組みとしてオンラインを活用した開催形態とした。

令和3年2月15日(月) 14:00~16:00

アクトシティ浜松コンgresセンター43 会議室

次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 会長 浜松市長 鈴木康友
3. パネルディスカッション
 - (1) 登壇者紹介
 - (2) コーディネーターによる趣旨説明
 - (3) 意見交換
 - ① 新型コロナウイルス感染症との共存 持続可能な経済活動のすがた
 - ② 地域連携の必要性・重要性を見つめ直す ウィズコロナ時代の観光
 - ③ 地域連携の必要性・重要性を見つめ直す ウィズコロナ時代の移住
 - (4) まとめ
4. ビデオ「三遠南信紀行」放映
5. サミット宣言
6. 次回開催地代表者あいさつ
三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 副会長 豊橋市長 浅井由崇
7. 閉会

.....

パネリスト	SENA 会長	浜松市長	鈴木康友
パネリスト	SENA 副会長	豊橋市長	浅井由崇
パネリスト	SENA 副会長	飯田市長	佐藤健
パネリスト	SENA 副会長	浜松商工会議所会頭	大須賀正孝
パネリスト	SENA 副会長	豊橋商工会議所会頭	神野吾郎
パネリスト	SENA 副会長	飯田商工会議所会頭	原勉
コーディネーター	愛知大学三遠南信地域連携研究センター長		戸田敏行
総合司会	フリーアナウンサー		袴田実有子

第 28 回三遠南信サミット 2021 in 遠州 サミット宣言

第 28 回 三遠南信サミット 2021 in 遠州は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、関係者が参集するこれまでの形態から、平成 6 年の第 1 回サミット以来初めての試みとして、インターネット配信による開催となりました。新型コロナウイルス感染症は、私たちの社会経済に大きな打撃を与え、その勢いは未だ衰えず、収束の見通しが立たない状況にあります。

このような状況を踏まえ、サミットのテーマを「ウィズコロナ時代における県境連携の再価値化 ～逆境からの挑戦～」としました。コロナ禍の現状を踏まえ、各々の地域の取組を共有し三遠南信地域連携の価値を再認識すべく、正副会長によるパネルディスカッションを行い、YouTube によりライブ配信いたしました。そのほか、SENA 全構成員代表者によるビデオメッセージをホームページから配信いたしました。

私たち三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、新型コロナウイルス感染症がもたらす脅威にひるむことなく、日本の県境連携先進モデルとして第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの実現を目指すとともに、今後見込まれる東京都など大都市から地方への分散化の受け皿として、次の事項に重点を置き、取組を推進してまいります。

- 1 リニア中央新幹線開業に伴うスーパー・メガリージョンの形成に備え、三遠南信自動車道の早期全線開通をはじめ、浜松三ヶ日・豊橋道路（仮称）の早期実現など、本地域の交通基盤整備に向け、引き続き地域一丸となって提言活動を進めます。
- 2 ものづくり産業や農林水産業が盛んである本地域のポテンシャルを最大限に活かし、加速するデジタル化に対応した環境整備を促進します。また、経済モード、安全モードを巧みに切り替えるデュアルモード社会に対応し、ウィズコロナ時代を生き抜く持続可能な経済活動を進めます。
- 3 本地域の特色ある自然、文化、食など多様な観光資源を活かした広域観光プロモーションを推進します。また、地域の観光情報や魅力について、オンラインを活用

した発信も取り入れながら、マイクロツーリズムやサイクルツーリズム等、安全で気軽な観光を楽しんでいただけるよう観光客誘致を進めます。

- 4 コロナ禍の影響により地方への移住に関心が高まっている流れをチャンスと捉え、本地域で暮らし、働き、子育ていただけるよう環境づくりに取り組み、移住希望者に対する官民連携による相談対応やテレワーク等の多様な働き方に対応し、企業や人を受け入れる体制づくりを進めます。

三遠南信地域連携ビジョン推進会議（SENA）は、県境を越えた広域連携による絆を一層強化・深化させ、官民連携の強みを活かし、多様な主体による新たな地域連携のプラットフォームの形成を進め、地域課題の解決へ向けた挑戦を続けてまいります。

これらについて、この場を共有する全ての主体が確認し、第28回三遠南信サミット2021 in 遠州のサミット宣言といたします。

令和3年2月15日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議
第28回三遠南信サミット2021 in 遠州

◆チラシ



◆特設サイト ※サミット当日（R2.2.15）閲覧数…約 1,100 件



◆95 構成員代表者によるビデオメッセージ



◆パネルディスカッション (YouTube 配信)



◆浜松会場①



◆浜松会場②



◆静岡新聞

移住促進へ受け皿整備

三遠南信サミット 浜松市長ら出席

浜松市長ら出席の三遠南信サミットが、移住促進策の受け皿整備について意見交換を行った。浜松市長ら出席の三遠南信サミットが、移住促進策の受け皿整備について意見交換を行った。

三遠南信サミットは、移住促進策の受け皿整備について意見交換を行った。浜松市長ら出席の三遠南信サミットが、移住促進策の受け皿整備について意見交換を行った。

モデル3校試験導入

県教委働き方改革で来年度

県教委は働き方改革の一環として、来年度からモデル3校で試験導入する。県教委は働き方改革の一環として、来年度からモデル3校で試験導入する。

県教委は働き方改革の一環として、来年度からモデル3校で試験導入する。県教委は働き方改革の一環として、来年度からモデル3校で試験導入する。

◆中日新聞

「三遠南信」連携を模索

「ウィズコロナ時代」見据え 意見交換

三遠南信サミットが、ウィズコロナ時代を見据え、連携を模索する。三遠南信サミットが、ウィズコロナ時代を見据え、連携を模索する。

三遠南信サミットが、ウィズコロナ時代を見据え、連携を模索する。三遠南信サミットが、ウィズコロナ時代を見据え、連携を模索する。

テレワーク体制など

テレワーク体制などについて意見交換が行われた。テレワーク体制などについて意見交換が行われた。

テレワーク体制などについて意見交換が行われた。テレワーク体制などについて意見交換が行われた。

◆東愛知新聞

オンラインであった三遠南信サミット

ウィズコロナ時代の連携を

三遠南信サミットがオンラインで開催され、ウィズコロナ時代の連携について意見交換が行われた。三遠南信サミットがオンラインで開催され、ウィズコロナ時代の連携について意見交換が行われた。

三遠南信サミットがオンラインで開催され、ウィズコロナ時代の連携について意見交換が行われた。三遠南信サミットがオンラインで開催され、ウィズコロナ時代の連携について意見交換が行われた。

◆東日新聞

県境を超えた連携を考える

システム統一化を模索

三遠南信サミットが、県境を超えた連携について意見交換を行った。システム統一化を模索する。三遠南信サミットが、県境を超えた連携について意見交換を行った。システム統一化を模索する。

三遠南信サミットが、県境を超えた連携について意見交換を行った。システム統一化を模索する。三遠南信サミットが、県境を超えた連携について意見交換を行った。システム統一化を模索する。

歳入歳出決算

San-En-NanshinSUMMIT

○歳入内訳

(単位：円)

項目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	説明
1 事業費	4,000,000	2,525,572	
2 参加者負担金	0	0	
計	4,000,000	2,525,572	

○歳出内訳

(単位：円)

項目	令和2年度 予算額	令和2年度 決算額	説明
1 運営業務委託費	2,000,000	1,837,880	パネルディスカッション運営、広報、特設 Web ページ開設
2 会場関係費	500,000	161,680	パネルディスカッション用会場使用料 ほか
3 交流会設営費	0	0	※交流会未実施
4 交流会飲食費	0	0	※交流会未実施
5 資料関係費	700,000	0	※報告書（冊子）制作せず
6 住民セッション 関係費	300,000	299,995	企画運営業務委託料、会場費等
7 会議費	10,000	0	※スタッフ説明会未実施
8 事務費	490,000	194,657	郵送費、消耗品費ほか
9 謝金	0	31,360	コーディネーター謝金
計	4,000,000	2,525,572	